2020年度　　EA

世　界　史

注　意

1. 問題は全部で9ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけない。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. 解答用紙(その1)はマーク・シートになっている。HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ⬭ を塗りつぶしなさい。○で囲んだり╳をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が 1 のとき)

1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪

4. 一度記入したマークを消す場合は，消しゴムでよく消すこと。╳をつけても消したことにならない。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

〔Ⅰ〕 東アジアの歴史に関する以下の文章を読んで，問いに答えなさい。**解答用紙は（その１）を使用すること。**選択肢の使用は１回とは限りません。

(1) （　a　）は，奉天軍閥を率いた人物の息子で，（　b　）が指揮を執った北伐軍と対立した。しかし，父親が関東軍に暗殺されると，国民政府への支持を表明した。

(2) （　c　）は，湖南省に生まれ，学生運動に参加し，（　h　）で開催された中国共産党の創立大会に出席し，その後，農民運動を組織し，国民政府の軍隊との戦いの中で，「長征」の途上，（　i　）で開催された会議で実権を掌握した。

(3) （　d　）は，河南省に生まれ，淮軍を率いた（　e　）によって朝鮮に派遣され，日本との交渉で大きな役割を果たした。義和団事件ののち，直隷総督となり，軍事や行政の改革を実施したが，（　f　）の死後，罷免された。武昌蜂起がおこると，復権し，翌年，（　g　）のあとを受けて，臨時大総統となった。

(4) （　b　）は，広東省に設立された黄埔軍官学校の校長をつとめ，国民革命軍の総司令官となって北伐を開始した。その途上，（　j　）でクーデタをおこし，共産党を弾圧し，その後，（　k　）に国民政府を樹立した。

問１ (1)〜(4)の文章の下線部の出来事を，古いものから順に並べ替え，その番号をマークしなさい。 $\boxed{1}$ 〜 $\boxed{4}$

$\boxed{1}$ → $\boxed{2}$ → $\boxed{3}$ → $\boxed{4}$

問２ （　a　）から（　g　）に入る最も適切な人名を下の選択肢から一つ選び，その番号をマークしなさい。（　a　）$\boxed{5}$ 〜（　g　）$\boxed{11}$

① 周恩来　② 鄧小平　③ 金日成　④ 孫　文
⑤ 蔣介石　⑥ 西太后　⑦ 張学良　⑧ 袁世凱
⑨ 毛沢東　⓪ 李鴻章

問 3 （ h ）から（ k ）に入る，最も適切な地名を下の選択肢から一つ選び，その番号をマークしなさい。（ h ） 12 ～（ k ） 15

① 上 海　② 天 津　③ 南 京　④ 済 南
⑤ 重 慶　⑥ 西 安　⑦ 遵 義　⑧ 大 連
⑨ 杭 州　⓪ 太 原

〔Ⅱ〕 ローマ教皇レオ１世に関連する出来事についての以下の文章を読んで，問いに答えなさい。**解答用紙は（その１）を使用すること。**

451年，ローマ教皇レオ１世の書簡に基づき，東ローマ皇帝マルキアヌスによって招集された（　a　）公会議において，キリストに神性のみを認める単性論は否定された。

（　a　）公会議は第４回の公会議であったが，第１回の公会議は，325年，ローマ皇帝コンスタンティヌス１世[b]によって招集されたニケーア公会議である。この公会議において，キリストの人性を強く主張した（　c　）派は異端とされた。そして，第３回の公会議は，431年，東ローマ皇帝テオドシウス２世によって招集されたエフェソス公会議である。この公会議において（　d　）は，異端として追放された。

452年，ローマ教皇レオ１世は，イタリアに侵入したフン族の王アッティラと会見した。その結果，フン族はローマ侵攻を行わずにイタリアから撤退する。

アッティラは（　e　）を本拠に，東ローマ帝国領を度々侵略してその支配地を拡大，大帝国を築き上げた。さらに転じて西ローマ帝国領への侵攻を図りガリアに入った。451年，アッティラ軍は，西ローマ帝国と（　f　）族を主力とするゲルマン勢力の連合軍と（　g　）の平原で激突する。この戦いに敗れたアッティラは矛先をイタリアに向けたのであった。

455年，ローマ教皇レオ１世は，（　h　）からローマに侵攻してきた（　i　）族の王ガイセリックを説得し，放火と殺戮を行わないことを約束させた。ガイセリックは財宝を略奪し多数の捕虜を連れ去った。

西ローマ帝国の衰退は著しく，（　j　）年ゲルマン人将校オドアケルは，西ローマ皇帝ロムルス＝アウグストゥルスを廃位し，同帝国は滅亡した。オドアケルは，493年，（　k　）族の王（　l　）によって倒されることになる。イタリアに建国された（　k　）王国は，（　l　）の死後内紛が起こり，555年，東ローマ皇帝ユスティニアヌス１世[m]によって征服される。ユスティニアヌス１世の死

後，568年に北イタリアでは(　n　)王国が建国された。この王国は，750年代にフランク王国に攻められ，奪われた(　o　)によってローマ教皇ステファヌス3世に寄進される。教皇領の始まりであった。

問1　(　a　)に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。
16

①　ラテラノ　②　トリエント　③　ヴィエンヌ　④　カルケドン

問2　下線部bの人物について，適切ではないものを一つ選び，その番号をマークしなさい。17

①　ミラノ勅令でキリスト教を国教と定めた。
②　下層民の身分・職業を世襲化した。
③　ソリドゥス金貨を創設して地中海交易の安定化を進めた。
④　ドミナトゥスを強化した。

問3　(　c　)に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。
18

①　アリウス　②　カルヴァン
③　アタナシウス　④　ネストリウス

問4　(　d　)に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。
19

①　アリウス　②　カルヴァン
③　アタナシウス　④　ネストリウス

問5　(　e　)に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。
20

①　マウレタニア　②　アルメニア　③　ルシタニア　④　パンノニア

問 6 （　f　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

21

① ランゴバルド　② ヴァンダル　③ 東ゴート　④ 西ゴート

問 7 （　g　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

22

① ワールシュタット　② カタラウヌム

③ ヘースティングズ　④ レヒフェルト

問 8 （　h　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

23

① カルタゴ　② テッサロニキ

③ ナルボンヌ　④ アクィレイア

問 9 （　i　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

24

① ランゴバルド　② ヴァンダル　③ 東ゴート　④ 西ゴート

問10 （　j　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

25

① 471　② 476　③ 481　④ 486

問11 （　k　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

26

① ランゴバルド　② ヴァンダル　③ 東ゴート　④ 西ゴート

問12 （　l　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

27

① アラリック　　② ロ　ロ

③ シキベルト　　④ テオドリック

問13 下線部mの人物について，適切ではないものを一つ選び，その番号をマークしなさい。 28

① 内陸アジアから養蚕技術を導入した。

② 軍管区制を施行した。

③ ハギア＝ソフィア聖堂を建立した。

④ ニカの反乱を鎮圧した。

問14 （　n　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

29

① ランゴバルド　② ヴァンダル　③ 東ゴート　④ 西ゴート

問15 （　o　）に入る最も適切なものを一つ選び，その番号をマークしなさい。

30

① ラヴェンナ地方は，フランク国王ピピン

② ベネヴェント地方は，フランク国王ピピン

③ ラヴェンナ地方は，フランク国王クローヴィス

④ ベネヴェント地方は，フランク国王クローヴィス

〔Ⅲ〕 インドについての以下の文章を読んで，空欄に最も適切な語句を入れたうえで問いに答えなさい。**解答用紙は（その２）を使用すること。**

インドには10世紀から中央アジアのイスラーム勢力が進出し，1206年にはインド初のイスラーム政権が誕生した。この政権を含め，その後，北インドのヤムナー河畔の都市を本拠としたイスラーム諸王朝はまとめて（ ① ）朝と言われる。（ ① ）朝の最後の王朝となったのは（ ② ）朝であり，この王朝は（ ③ ）に敗北し，（ ③ ）はムガル帝国の基礎を築いた。15〜16世紀のインドでは，イスラーム教とヒンドゥー教との融合をはかる信仰がさかんになり，偶像崇拝や苦行，カースト制を否定したシク教が，（ ④ ）を祖として創始された。こうした背景のもと，ムガル帝国第3代皇帝（ ⑤ ）は宗教寛容政策をとった。しかし，第6代皇帝（ ⑥ ）は，イスラームにのっとった国家をめざし，それまでの宗教寛容政策を転換した。このような状況のなか，ヒンドゥー勢力やシク勢力などの反乱が頻発した。西インドではヒンドゥー教国家である（ ⑦ ）王国が17世紀半ばに建てられ，18世紀初めにはムガル帝国は解体に向かった。

ヨーロッパの諸勢力とインドとの関係に目を向けると，ヨーロッパ諸勢力による領土支配が重視されるようになるのは18世紀以降であり，それまではアジアの域内貿易に参加することがヨーロッパ諸勢力の狙いだった。その際の重要産品は(ア)インド産綿布であった。1600年に設立された(イ)イギリス東インド会社は当初，東南アジアでの香辛料貿易に従事していたが，1623年の事件にてオランダに敗れて以来，インド貿易に重点を置いて活動した。一方，フランス東インド会社は17世紀初頭に設立されたもののしばらくして活動を停止したが，フランスの財務総監（ ⑧ ）によって再建された後，インド南東岸にある都市（ ⑨ ）を拠点に活動した。

18世紀になると，ヨーロッパでの戦争を背景にインドでも英仏両勢力の間で争いが起こった。フランスのインド行政官（ ⑩ ）は，ヨーロッパにおいて1740年に始まり1748年に終わった（ ⑪ ）戦争の間に，イギリス勢力の拠点を奪ってインドにおけるフランス勢力の拡大につとめた。（ ⑩ ）はのちにインド総督となったが，インド支配に対してフランス本国の支持を得られず，やがて本

国に召還された。フランスは1757年の戦いでイギリス東インド会社に敗れ，フランスの勢力拡大は失敗に終わった。

イギリス東インド会社はインド内部の諸勢力に対しても支配を広げ，19世紀半ばまでにインド全域を制圧し，インドの植民地化を完成させた。同会社はインドでの植民地統治のために新たに徴税制度(ウ)を構築した。同会社の植民地支配に対してはインド国内で反感が広がり，それを背景に1850年代後半には大反乱が生じた。イギリスはその間に東インド会社を解散し，インドの直接統治に乗り出し，1877年にはイギリス支配下でインド帝国が成立した。イギリス統治下のインドでは，従来の強圧的な政策から現地住民同士の対立を作り出す「分割統治」と呼ばれる政策への転換もみられ，1905年には(　⑫　)州を二つに分割する法令が出された。これに対し，19世紀末から20世紀初めにかけてのインド民族運動を指導した(　⑬　)らは，分割反対運動で大衆の急進的な反英意識を高揚させた。(　⑬　)は，ローカマーヤ(民衆に愛される人)と敬称された。

問 1　下線部(ア)に関連する以下の文章を読んで，空欄に入る語句を答えなさい。

スペインは16世紀後半にフィリピンを領有し，これをメキシコと結んでアジア貿易を展開した。この貿易では，マニラからメキシコの都市(　a　)へ，帆船である(　b　)船によってインド産綿布を含む産品が運ばれた。

問 2　下線部(イ)に関連する以下の文章を読んで，空欄に入る語句を答えなさい。

17 世紀前半，イギリス東インド会社はペルシアとの貿易の円滑化も目指していた。同地域にある(　a　)は 1515 年に(　b　)によって占領されたが，東インド会社はペルシアを治めていた皇帝(　c　)と交渉し，1622 年の(　a　)からの(　b　)人追放に協力するかわりに，ペルシアでの貿易についての特権を得ている。なお，(　a　)はかつて，南インドにて 14 世紀に建てられた王国との貿易の拠点になっていた。

問 3　下線部(ウ)に関連する以下の文章を読んで，空欄に入る語句を答えなさい。

東インド会社統治下のインドでの最大の収入源は地税であったが，その徴税方法は支配する地域によって異なっていた。徴税制度の一つとして，農民の土地所有権を認め直接地税を徴収する(　a　)制があり，これはインド南部や西部で導入された。イギリスの直接統治下においても地税は主要な財源だったが，この他に(　b　)にも税がかけられていた。1930 年代，インドの社会運動家は(　b　)への課税やその専売を植民地支配の象徴ととらえ，イギリス支配への抗議の意を示した。彼は 1930 年 4 月に，当時の法律に反してダンディーにて自分で(　b　)を製造し，「この行為によって，わたしは大英帝国の根幹を揺さぶっている」と語った。